

フランス・アリス 展

2013年10月26日(土)～2014年1月26日(日)

アート 歩くことから物語がはじまる

～詩的な物語によって語られる、日常に潜む矛盾や不条理

メキシコ在住のアーティスト、フランス・アリス（1959年ベルギー生まれ）は、都市の中を歩きまわり、そこから見えてくる日常に潜む問題をとらえてきました。作家自身が街なかで行うアクションから数百人の参加者による大規模なものまで、アリスの行為は、映像や写真、物語性をもった魅力的な絵画、ドローイング、ときにはポストカードまで、多様な形で記録され、展開していきます。

砂塵を巻き上げる竜巻の中へカメラ片手に突入する。朝から晩まで、メキシコシティの街なかで巨大な氷を溶けるまで押し続ける。こうしたフランス・アリスの行為は、一見すると無謀で滑稽なものに映るかもしれませんが、しかし、その行為は個々の膨大な労力が費やされても私たちが生きる社会が変わらない不条理の寓意として、決して見過ごすことのできない現実を浮かび上がらせます。

アリスの活動の全貌を、代表作から新作プロジェクトまで概観する

アリスの初期作品の多くは、作家が生活するメキシコの社会的、政治的問題を扱っていますが、特定地域の問題さえも誰もが共有できるものにしてしまう詩的でウィットに富んだ卓越した表現力は、国際的に高く評価されています。

本展はメキシコで行った初期の代表作からジブラルタル海峡で行った大規模な新作プロジェクトまで、映像を中心に写真や絵画、インスタレーションなど初期作品から新作までアリス作品の全貌を明らかにするものです。

社会が大きな変化を迎えている今、アートは社会においてどのような役割を担うことができるか、問われています。そうした中、寓意に満ちた物語の力によって現実と向き合うアリスの姿勢は、現実社会に対するアートの可能性をあらためて提示することになるでしょう。

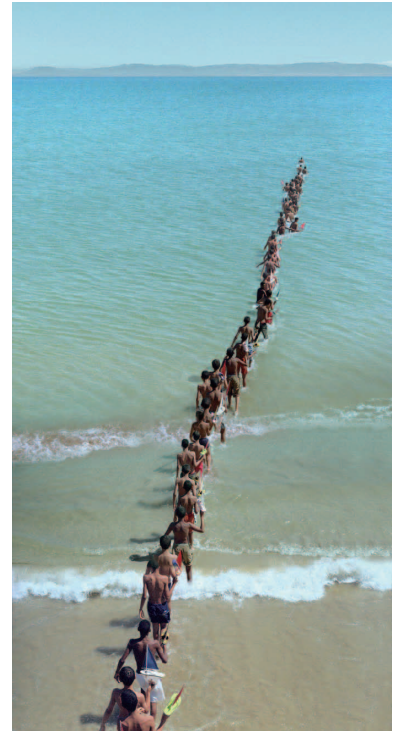
開催概要

- | | |
|--------|--|
| 【会期】 | 2013年10月26日(土)～2014年1月26日(日) |
| 【開館時間】 | 午前10時～午後5時 ※入場は閉館30分前まで |
| 【休館日】 | 月曜日(ただし祝休日にあたる場合は開館し翌日休館)、
年未年始(12月27日～1月1日) |
| 【観覧料】 | 一般1,000(800)円、大学生700(600)円、高校生・65歳以上
500(400)円※()内は前売りおよび30人以上の団体料金
※中学生以下は無料 ※11月3日は全館無料 |
| 【主催】 | 広島市現代美術館、中国新聞社 |
| 【協力】 | メキシコ大使館、公益財団法人フランダースセンター、ベルギー大使館
(すべて予定) |
| 【後援】 | 広島県、広島市教育委員会、広島エフエム放送、尾道エフエム放送 |



●展覧会図録、好評販売中!

作家書き下ろしによる、『川に着く前に橋を渡るな』の制作日誌を中心に作品図版や論考を収めた図録『川に着く前に橋を渡るな』(税込2,940円/青幻舎刊)を発行。全国書店およびミュージアムショップでお求めいただけます。



《川に着く前に橋を渡るな》2008年
ジブラルタル海峡
Photo: Jorge Golem



《トルネード》2000-10年
Photo: Jorge Golem



《実践のパラドクス1(ときには何も
ならないこともする)》1997年
Photo: Enrique Huerta

作家略歴

フランシス・アリス

1959年ベルギー、アントワープに生まれる。現在メキシコシティ在住。
ヴェネツィアで建築を学んだ後、1986年にメキシコに渡る。当初は建築家として働くも、80年代末よりアーティストとして作品を制作し始める。メキシコに始まりラテンアメリカの社会状況の寓意に満ちた作品をアクション、映像、絵画、写真など多岐にわたる表現で制作する。

また近年はパレスチナやアフガニスタンなど紛争の絶えない場へもアリスの制作の地は広がっている。90年代後半よりヴェネツィア・ビエンナーレやイスタンブール・ビエンナーレなどに招待され、国際的に注目される。2010年大規模個展がロンドンのテート・モダンで開催され、翌年にはニューヨーク近代美術館に巡回。2012年には、5年に一度の国際展「ドクメンタ13」（カッセル、ドイツ）に参加。

<http://www.francisalys.com>

主な作品

川に着く前に橋を渡るな

2008年に行った近年最大のプロジェクトでありながらほとんど公開されずに温められていた話題作。ジブラルタル海峡によって隔てられたヨーロッパとアフリカ、二つの大陸を海を渡る子どもたちの列によってつなごうとします。人の移動とそれを管理する国境をテーマに異なる文化を「つなぐ」ことを試み、アリスが紡いだ壮大な物語。

実践のパラドクス1（ときには何にもならないこともする）

アリスが朝から晩までメキシコシティ市街で巨大な氷の塊を、完全に溶けきるまで押し続けた様子を撮影した映像作品。一日中働いても手元には何も残らない。努力に対し結果が伴わない不均衡な関係はラテンアメリカの社会状況だけでなく私たちの日々の労働にもあてはまるかのようです。

眠るものたち

路上などで寝る人、犬などをアリスが撮影したもの。貧困の記録というよりは、近代化を推し進める都市で消えつつある風景の記録といえるでしょう。また公的空間を私的に流用する人々や動物の創造性を見えています。

コレクター

男が引いているのは犬ではなく磁石が仕込まれた犬の形をしたオブジェ。そのオブジェは道端に落ちている釘や瓶のふたといった鉄くずを集めていく。物があふれる現代社会において、すでに存在するものを見つめ作品の素材として使用するこの作品は、アリスが建築家からアーティストへ転身した時期に制作したものです。

愛国者たちの物語

アリスが羊たちを引き連れて広場を歩いています。その広場はかつて反政府運動にまつわる事件が勃発した場所でした。詩情豊かな羊たちの映像の中に、メキシコの政治や社会への鋭い言及を忍ばせた作品です。

トルネード

ビデオカメラを片手に竜巻の中に突入し撮影を行うという行為を、アリスは2000年から10年間続けました。渦の中心で出会う崇高な瞬間に惹かれ、危険をかえりみず繰り返し挑み続ける姿に、人間の業が見えるかのようです。

広島市現代美術館（学芸担当：神谷 広報担当：後藤、鈴木）

〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園 1-1

TEL/ 082-264-1121（代表 ※公表用）・082-264-1146（直通）

FAX/ 082-264-1198

E-MAIL/ hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp



フランシス・アリス ポートレート
2008年、モロッコ、
Photo: Roberto Rubalcava



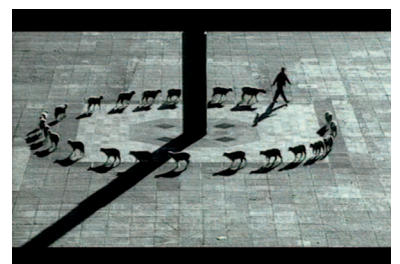
《川に着く前に橋を渡るな》2008年



《眠るものたち》1999年 - 現在



《コレクター》1990-92年



《愛国者たちの物語》1997年